附属校のNEWS

立命館中学校・高等学校

立命館高校がスーパーサイエンスハイスクール（SSH）先導的改革型に採択

3月31日（火）、文部科学省は、将来の国際的な科学技術人材の育成を目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業の令和2年度基礎枠の内定結果を公表しました。その結果、立命館高校は「SSH基礎枠先導的改革型」に採択されました。

先導的改革型に採択されたのは、全国で2校のみ（立命館高校・愛媛県立松山南高校）、指定期間は3年間となります。今回、先導的改革型に採択されたことにより、高校生にとってよりよい国際共同研究のあり方を模索しながら、科学技術人材育成に向けた取り組みを進展させていきます。

立命館宇治中学校・高等学校

「第101回 全国高等学校野球選手権 京都大会 優勝旗返還セレモニー」を開催

7月3日（金）、立命館宇治高校において、「第101回 全国高等学校野球選手権 京都大会 優勝旗返還セレモニー」が開催されました。本来は第102回 京都大会の開会式で返還されるものですが、大会中止を受け、京都府高野連会長・理事長・朝日新聞社京都総局長をお迎えし、部員80名を代表して、岡田蒼司主将が優勝旗を返還しました。7月11日（土）から開催された「夏季京都府高校野球ブロック大会」には、3年生のメンバーのみで挑みました。初戦は北桑田高校に勝利、2回戦は久御山高校に1-2で惜しくも敗れました。2回戦目の試合後、里井祥吾監督（産業社会学部2006年卒）は「お互い締まったナイスゲームでした」と両校選手の奮闘を讃えました。

立命館守山中学校・高等学校

滋賀県コロナ対策サイト立ち上げに 立命館守山高校生エンジニアが活躍

3月24日（火）、滋賀県が「新型コロナウイルス感染症対策サイト」を公開、本サイトの開発にあたっては伊藤祐聖さん（当時：高3）も参画しました。伊藤さんは、小学生の頃からプログラミングを始め、大阪府高槻市のCoder Dojo（コーダー道場）に通っていました。今回の企画を通じて、「自分の技術を地域のために使うことをライフワークにしていきたい」と話しています。

立命館慶祥中学校・高等学校

石堂陽奈さん（高3）が「セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京」で3位入賞

8月23日（日）、来年東京オリンピックの開催が予定されている新国立競技場にて、「セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京」が無観客で開催され、招待選手として女子100Mに出場した石堂陽奈さん（高3）が、見事3位に輝きました。また、本大会は、コロナ禍によってインターハイなどの大会が中止・延期となったことに鑑み、各種目、1～9名の高校生が出場する「ドリームレーン」が設けられ、男子100Mに鷹祥永さん（高3）、井澤真さん（高3）が出場しました。

立命館小学校

立命館小学校 リモート卒業式を実施

3月14日（土）、第11回立命館小学校卒業式を行いました。新型コロナウイルス感染拡大をうけ、開校以来初めて卒業生と教職員のみが参加する卒業式となり、保護者の皆様にはLive配信を行いました。卒業生は、休校中のため練習がわずか10分のみであったにも関わらず、立命館小学校の卒業生らしい、とても立派な態度で臨み、式典を無事に終えました。

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、
新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度より実施しています。

実績 327,483冊（6,977,600円） 7,049名 2013年4月～2020年5月

●活用事例

2013年10月	立命館小学校	1～6年生の必読書（43冊）
2014年8月	立命館大学	衣笠・BKC図書館 英語多読本・日本語学習教材（307冊）
2015年2月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（34冊）
2017年3月	立命館大学	OIC図書館 学生アンケートを募り選定した図書（470冊）
2018年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（31冊）
2019年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（41冊）
2020年3月	立命館小学校	児童たちからリクエストを募り選定した図書（16冊）

なお、購入された本には、**「古本募金により集まった寄付で購入した」ことが分かるシール**を貼付。
手に取った学生・生徒・児童たちに、ご支援いただいた方々の想いが少しでも届いてほしいという願いを込めています。

学校法人立命館 総務部 寄付事務局
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地
TEL: 075-813-8110 FAX: 075-813-8119 E-mail: rgiving@st.ritsumei.ac.jp

RITSUMEIKAN

ご寄付のお礼と ご報告

立命館

学生の生命・安全・健康を守る 新型コロナウイルス禍における 立命館大学の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大は社会に大きな影響を及ぼし、現在も国内外で多くの方々が病気と闘っていらっしゃいます。
亡くなられた方々に心からの弔意を表すとともに、感染された皆様の一日も早い回復を願っています。
また、非常に困難な状況下で医療や社会生活を支えてくださっている皆様のご努力ご尽力に、心から敬意を表します。
立命館は、学生の生命・安全・健康を守ることを第一としたうえで、教育と研究を継続するという社会的責任を果たしてまいります。

Web授業・経済的支援の実施

立命館大学では、1月中旬より感染症対策委員会において状況を把握し、留学プログラムの実施可否の判断、海外から帰国する学生の対応、アルコール消毒液の設置などの対応を開始しました。苦渋の決断ではありましたが、2月下旬には感染拡大防止の観点から卒業式・入学式の中止を決定するとともにホームページにて学長メッセージを発信いたしました。事態の重大さに鑑み、3月初旬には法人危機対策本部を設置して対応にあたりました。
学生の生命を守ることを最優先としつつ教育を継続するために、春学期の授業形態を見直し、4月6日からWeb授業を実施することといたしました。そして4月27日、Web授業の実施に伴う学習・通信環境整備への支援、仕送りやアルバイトができないことによる生活の困窮などに対する支援として、総額25億円の「新型コロナウイルス禍に対する学びの緊急支援」の実施を判断しました。

■「新型コロナウイルス禍に対する学びの緊急支援」　総額25億円

1　Web 授業のための受講環境整備支援策……16億円
- 本学園で学ぶすべての学生・生徒・児童に対して、一律3万円を支給
- 緊急的にWebを活用した授業実施となることに伴う学生・生徒・児童の各家庭における学習・通信環境整備への負担軽減のための支援
- PC、ルーターなどを無償で貸し出しなど

2　家計急変等経済支援策……5億円
- アルバイト就労ができなくなる、家計急変により学生生活が困難となる学生に対して、「緊急学生支援金」として最大9万円（月額3万円×3ヵ月）を支給
- 公的支援に加えて実施する、家計急変などに対する経済支援策

3　オンラインを活用した学習・生活・諸活動支援策……4億円

「緊急学生支援金」ご寄付のお礼と実績のご報告

新型コロナウイルス禍の厳しい状況が続くなか、本学に温かいご支援を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。皆様のご厚志により、新型コロナウイルス禍による家計急変やアルバイト就労ができなくなったなどの理由で生活の維持が困難となっている学生・大学院生3,796名に、「緊急学生支援金」として最大9万円（月額3万円×3ヵ月）を、6月末に支給することができました。 この先の収束が見えないなかで、学生などに対する経済支援制度の拡充などを進めていくうえでは、学園財政としての支援とともに、卒業生や教職員、そして日頃から学校法人立命館の教育研究活動にご理解ご支援いただいております皆様の温かい御志を得て、学生支援を進められればと存じます。

ご寄付の実績（2020年7月31日までの入金実績）

	件数	金額
個人	2,656 件	94,176,407 円
法人・団体	50 件	25,281,208 円
合計	2,706 件	119,457,615 円

※ご寄付は、現在も募集しています（2020年12月31日まで）。

ごあいさつ

平素は立命館学園の教育研究に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2020年、立命館が創始150年・学園創立120周年の節目の年を迎えるなか、
猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界は急激に変化を遂げる転換点に立っています。
私たちは、歴史を辿る重要性を多としつつも、先を見通す“想像力”そして“戦略性”を一層高めることが
重要であることを再認識し、大学・教育機関としての責任を果たしていく決意を新たにしております。
今後も学園を挙げて、教育・研究にさらに精進を重ねる所存でございますので、
変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人立命館 理事長　森島朋三

独自の行動指針の策定・入構制限の段階的緩和

立命館大学では社会の動きと連動しながら独自の活動制限レベルを6段階で設定した「新型コロナウイルス感染拡大に対する立命館大学の行動指針（BCP）」（下表）を策定しました。キャンパスが京都府・滋賀県・大阪府と3つの府県に分かれ、そこに通う学生はさらに広域から集まっていますので、レベルに応じて立命館大学全体として対応を決定しています。
5月25日、政府による「緊急事態宣言」が解除され、今後は「新しい生活様式」が社会経済全体に定着するまで一定の移行期間を設けて、外出自粛、イベント開催制限、施設の使用制限の要請などを段階的に緩和する方針が示されました。6月下旬、BCP活動レベルを「2」に引き下げ、学生の入構制限措置を緩和し、事前申込制で図書館や情報教室など大学施設の利用を再開しました。7月下旬には、実験・実習など大学施設を利用する必要性のある一部の科目について、感染防止に十分な配慮を行ったうえで、教室での授業を実施しました。

■新型コロナウイルス感染拡大に対する立命館大学の行動指針（BCP）

活動制限レベル		主な制限の内容
0	制限なし	
1	制限―最小	感染拡大に注意して、ほぼ通常通りの活動を行う。
2	制限―小	感染拡大に最大限注意し、Web授業、オンライン会議などを推奨。「3密」を避ける工夫をする。
3	制限―中	「3密」を徹底して避けることを前提に、原則Web授業のみ、イベントや入構には厳しい制限あり。
4	制限―大	原則Web授業のみ、キャンパスへの入構は原則禁止。
5	制限―最大	原則停止。Web授業、オンライン会議などのみ。

BCPレベルなどの最新情報は、新型コロナウイルス感染症に関する特設ページをご参照ください。
http://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=1679

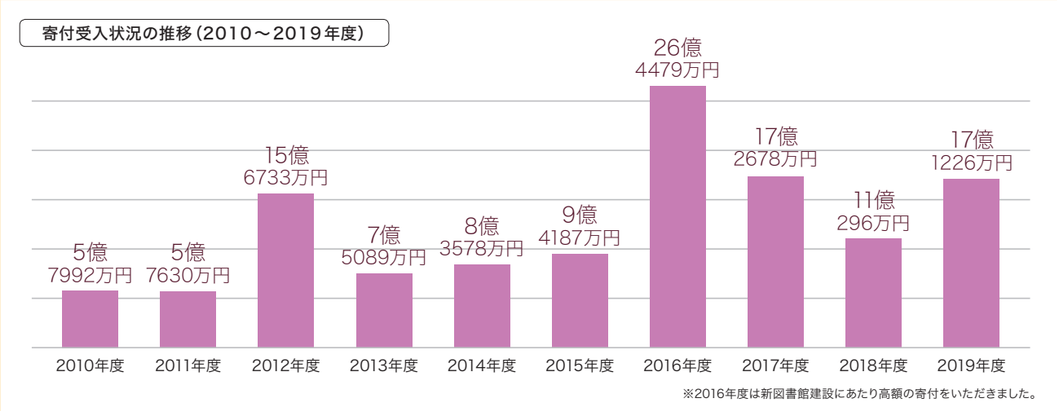
秋学期に向けて

秋学期は、感染防止対策を十分に取ったうえで、一部の科目で教室での対面授業を再開し、キャンパス内での学習・研究活動も再開する予定です。対面授業、Web授業、対面授業とWeb授業の併用など、それぞれの科目の特性に応じて実施します。
立命館大学では、学生と教職員の安全を最優先に考え、キャンパスへの入構制限など感染拡大防止に取り組む一方で、最大限の教育研究活動を維持するため、「3密」の徹底回避を前提に、制限する範囲をコントロールしていくことも常に議論しています。今後も組織的かつ臨機応変に判断し、行動に移してまいります。

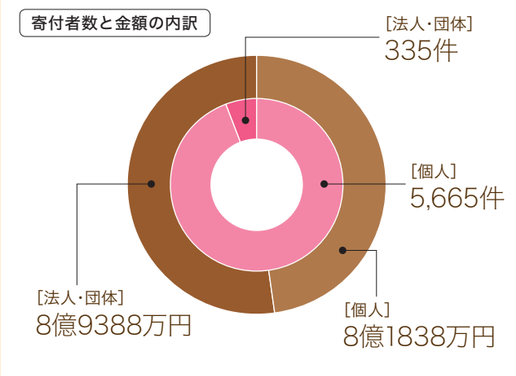
2019年度実績報告

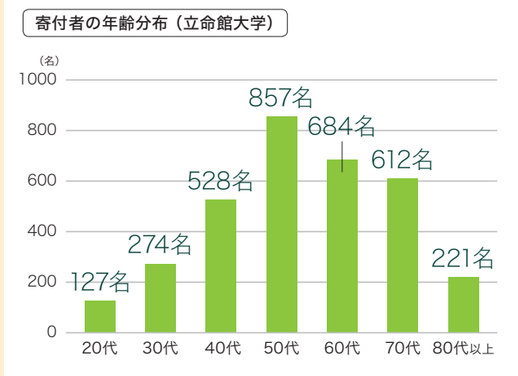
皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。2019年度は総額17億円の温かいご支援を頂戴しました。

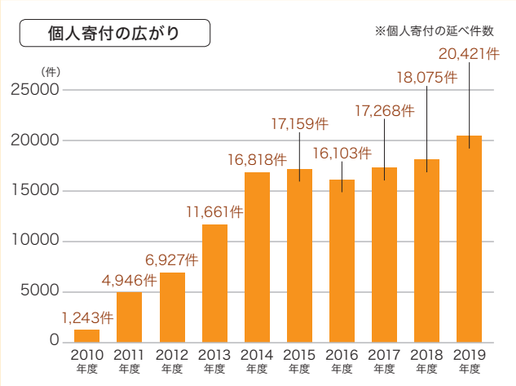
［寄付金額の推移］

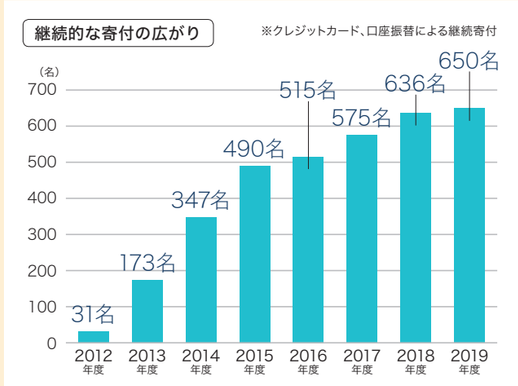


［2019年度 寄付受入状況］









立命館創始150年・学園創立120周年記念シンポジウム

5月24日（日）、立命館創始150年・学園創立120周年を記念したシンポジウム「自由に生きるための知性とはなにか?」を開催しました。当初、渋谷ヒカリエ（東京都）にて実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催することになりました。結果として、国内外から1,000名を超える方々がお申込みくださいました。

開会挨拶に立った仲谷善雄・立命館大学長は、「With／Afterコロナ時代において、どのように生きるのかは、人工知能AIではなく、我々人間が悩み、考え続けることでしか展望が開けないのではないか。本日の議論が新たな価値や意味を見出すきっかけになってほしい」と述べました。

続いて、熊谷晋一郎・東京大学先端科学技術研究センター准教授が「わたしを発見する知：リベラルアーツと当事者研究」と題して基調講演を行いました。熊谷准教授は、唯一無二の「わたし」を対象とする「当事者研究」について紹介、脳性マヒを持つ自身の経験を交えて「自分の弱さや取り巻く環境要因を理解することが、認識や行動パターンを変える力になる。また、コロナの状況は総当事者化を招いている。当事者研究は障がいを持った方にのみ役立つ方法ではなく、多くの方々にとってのヒントになるだろう」とお話いただきました。

後半は、上田紀行・東京工業大学教授、隠岐さや香・名古屋大学大学院経済学研究科教授、山下範久・立命館大学グローバル教養学部教授が加わり、リベラルアーツをテーマにそれぞれの立場からスピーチいただきました。その後、松原洋子・立命館大学副学長がモデレーターとなりパネルディスカッションを実施、コロナ禍が示した「答えのない時代」においてリベラルアーツが持つ想像／創造の力が、多様な他者との関係においてどのような価値（意味）があるのかなどについて意見交換、また視聴者の方々から120を超える質問が寄せられ、限られた時間の中ではありましたが、質疑応答も行いました。

シンポジウムの様子は、編集版としてYouTube「Ritsumeikan Channel」にて期間限定公開しています。
※公開期間は2020年12月31日（木）まで

https://www.youtube.com/watch?v=THAVb-FFHbw

2020年、学校法人立命館は創始150年・学園創立120周年という節目の年を迎えましたが、新型コロナウイルス感染拡大という事態に鑑み、記念式典などの企画は来年度への延期となりました。

学生の活躍

情報理工学部プロジェクト団体Ri-oneが世界大会「RoboCup@Home Education Online Challenge 2020」で3位入賞

6月27日（土）・28（日）、「RoboCup@Home Education Online Challenge 2020」が開催されました。
オープンプラットフォームのオープン部門で、情報理工学部プロジェクト団体Ri-oneが3位（Bronze Award）入賞を果たしました。2018年・2019年の「レスキューシミュレーションリーグ」テクニカルチャレンジ部門での2連覇に続き、3年連続の入賞です。「RoboCup@Home Education Challenge 2020」は、世界最大規模の自律移動型ロボットの競技会「RoboCup」の一つであり、人間の生活環境をサポートする人工知能を実装したロボットの性能を競います。当初、フランスでの開催が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで実施されました。Ri-oneは、スマートフォンから操作・対話でき、レストランや家庭内で活躍が期待される「生活支援ロボット」を製作し、高い通信システムが評価されました。

松原翔吾さん（生命科学研究科）が「日本学術振興会 育志賞」を受賞

松原翔吾さん（生命科学研究科博士課程後期課程2回生〈当時〉）が、2019年度「日本学術振興会 育志賞」を受賞しました。「日本学術振興会 育志賞」は、上皇陛下からのお気持ちを受けて、2010年度に創立されました。将来、日本の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学および研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的としています。受賞者は毎年16名程度、今年は大学長もしくは学会長の推薦を受けた175名の候補者のなかから、松原さんを含む18名が選出されました。

松原さんの研究テーマは、光合成器官の一種である光合成アンテナがどのように形成されているかを解明することです。現在の技術では「生きた生物を生きたまま観察する」ことは難しいとされています。今回の研究では、光合成アンテナが成長していく過程を光を用いて人工的に再現し、それを観察することによって成長（形成）過程を解明する手法を確立しました。
本研究によって、エネルギー・環境問題・食糧問題の解決策となりうる光合成をさらに深く理解できるようになることが期待されます。

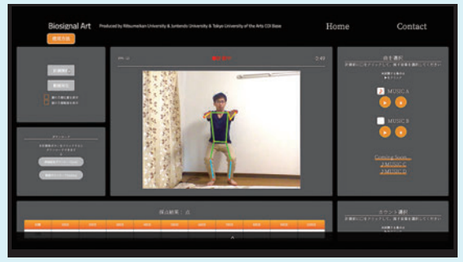
「未来のBeyond Borders応援サイト」をオープン

大学入学後もオンキャンパスで学生生活を送れない新入生に向け、立命館大学での学生生活のイメージを少しでも届けるため「STORY Beyond Borders―挑戦者の物語―」を企画しました。「学生たちにメッセージを届けたい」と、校友（卒業生）の方々のご協力のもと、スマートフォンなどで自撮りした映像を送っていただき、編集しています。先輩たちのストーリーを通じて、この状況が収束した先にある“それぞれの大学生活”を思い描くことを期待しています。

http://www.ritsumei.ac.jp/features/furefure_beyond-borders2020/

未来を切り拓く研究者

Sports×Art×Technologyで運動を点数や音楽表現に変換し、楽しく継続することができるアプリを開発 ～COVID-19で運動不足の方へ向けて研究成果を社会還元～



5月20日（水）、岡田志麻・立命館大学理工学部准教授が、町田修一・順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科教授、小川類・東京藝術大学特任准教授と共同開発した「Biosignal Art（バイオシグナルアート）」を発表しました。運動・トレーニングを点数や音楽表現に変換するウェブアプリです。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で日常生活が制限され、運動不足となっている人々のために、自分たちの研究成果で社会貢献できないかという研究者や学生の強い思いから、これまで培ってきた研究成果に基づき、約1ヵ月という短期間で開発を進めました。

小川さやか・立命館大学大学院先端総合学術研究科教授が「第8回河合隼雄学芸賞」「第51回大宅壮一ノンフィクション賞」を受賞

6月1日（月）、「第8回河合隼雄物語賞・学芸賞（主催：河合隼雄財団）」の選考会が開かれ、小川さやか教授の著書『チョンキンマンションのボスは知っている―アングラ経済の人類学』（春秋社、2019年7月）が学芸賞を受賞しました。本賞は、優れた学術的成果と独創をもとに、様々な世界の深層を物語性豊かに明らかにした著作に与えられるものです。さらに6月11日（木）、「第51回大宅壮一ノンフィクション賞（主催：日本文学振興会）」においても同書が受賞しました。本賞は、各年のすぐれたルポルタージュ・旅行記・ドキュメンタリーなどのノンフィクション作品を表彰するものです。今回受賞した書籍は、香港社会に生きるタンザニア人コミュニティを参与観察という手法で調査し、香港に移住するタンザニア人の半生、既存の制度に期待しない人々によるセーフティネット・信用システム・シェアリング経済など、可能性に満ちた社会を描いています。

アート・リサーチセンターが祇園祭デジタル・ミュージアムをWEB公開

7月1日（水）、立命館大学アート・リサーチセンター（以下、ARC）と文学部は、「祇園祭デジタル・ミュージアム2020―過去・現在・未来―」を公開しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年の祇園祭は山鉾巡行をはじめ、多くの関連行事の中止が決定されていますので、この「祇園祭デジタル・ミュージアム2020」を通じて、祇園祭の魅力や歴史を知り、体感してください。ARCは、2002年から祇園祭に関する古写真や映像・古文書などを収集し、デジタル化して保存する取り組みを進めてきました。今回、これまで蓄積してきた祇園祭に関するさまざまな研究成果（祇園祭の2D・3Dマップやバーチャル山鉾巡行の動画など）、4,000点以上の資料を公開しています。

表紙写真

本報告書の写真は、祇園祭の山鉾の一つで、「祇園祭デジタル・ミュージアム2020」の主要なアーカイブ対象となった船鉾の写真です。今年は鉾建ても中止のため、写真は2012年頃に撮影されたものです。